

事例番号 060 ほっとするまち(神奈川県茅ヶ崎市)

1. 背景

茅ヶ崎市は神奈川県相模原台地の西南端から南の湘南海岸に至る地域を占める人口約 23 万人の市である。先土器時代の遺跡が発見されていることからわかるように、この地における人の営みの歴史は古く、文献上は『日本書紀』に茅ヶ崎の属する高座(倉)群が登場している。平安時代には大庭氏一族が土地を開墾して荘園「大場御厨(おおばのみくりや)」を築いた。鎌倉時代には大仏氏が領主となり、鎌倉・京都間の交通の要衝として栄えた。その後、後北条氏の支配を経て江戸時代には多くの旗本領、幕府直轄領として治められたが(大岡忠相の領地等)、物資の集散地、参勤交代等における交通の要衝として江戸時代を通じて商業はおおいに栄えた。

明治 22 年には市制・町村制により 23 の村が 4 つの村に集約され、明治 41 年(1908 年)にそのうちの 3 つの村が合併して茅ヶ崎町となった。明治 31 年(1898 年)に東海道線茅ヶ崎駅が開業すると、茅ヶ崎は別荘地、海水浴場、保養地、療養所として開発が進んだ。

戦後は、京浜方面からの流入や海外からの引き揚げにより人口が急増し、1947 年に茅ヶ崎市となった。高度成長期には首都圏のベッドタウンとしてさらに人口が急増して宅地開発が急速に進んだことから、大気汚染、交通騒音等さまざまな環境問題が発生するようになった。

茅ヶ崎市は、地勢の特徴から北部、南部の異なる 2 つの地区に分けることができる。北部は里山が残る緑が多い地区であるが、近年マンションの建設により自然環境が損なわれてきている。南部は湘南の海に面した別荘地であったが、近年ミニ開発により別荘地としての面影が失われつつあり、砂浜も減少してきている。地区ごとに様々な問題を抱えている。このような状況の中、大型店出店を契機に1つのまちづくり活動が始まった。1999 年にはさらにジャスコが進出する計画がもちあがった。これが茅ヶ崎市における今日のまちづくりをより活発にした。

ジャスコの出店計画に対し、茅ヶ崎市商店会連合会(以下「商連」)と茅ヶ崎市消費者団体連絡会の有志が連携して反対運動を展開した(署名集め、大規模小売店舗審議会へ意見書提出等)。結果としてジャスコは出店したが、これを機に反対運動関係者が「商店街づくり、まちづくりにとりくもう」と市民活動グループ「ほっと茅ヶ崎準備室」を設立した(1999 年 12 月)。

2. 目標

「ほっと茅ヶ崎準備室」は次のコンセプトの下で茅ヶ崎にこだわって、市民と商店街が一緒にまちづくりに取り組んでいる。

- 住みたい茅ヶ崎はどんなまちなのでしょう
- 子どもたちが育つまち
- 年をとっても暮らしやすいまち
- そこに住む人々と商店の未来を考えます
- ほっとは「安心」 ほっとは「熱い思い」
- そんな場所や関わりがたくさんある
- ほっとな茅ヶ崎づくりをめざします
- あなたも参加しませんか

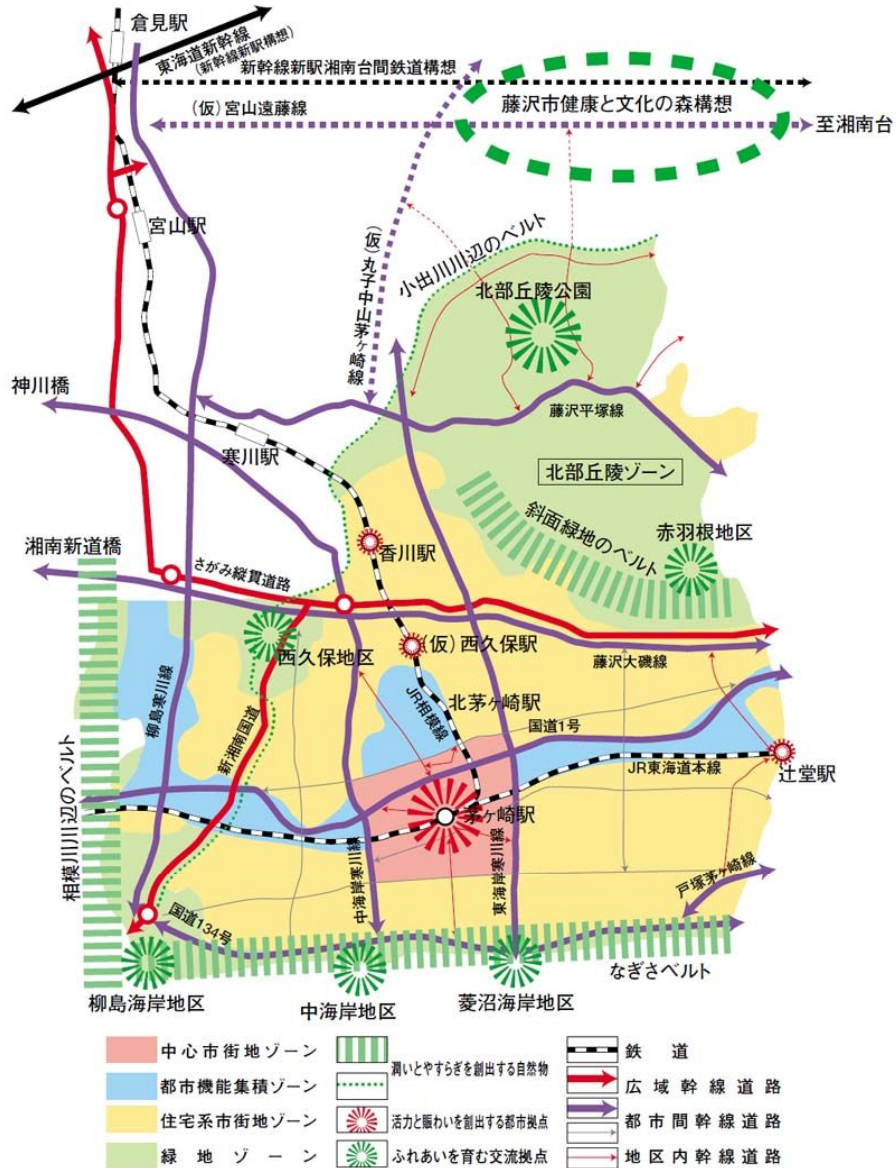


茅ヶ崎市の位置 (資料:茅ヶ崎市)

3. 取り組みの体制

「ほっと茅ヶ崎準備室」が独自にまちづくりに取り組んできている。その組織は「まちづくり人間の集まり」(同室による、以下同じ)であるが、「まちづくり人間」は必ずしも専門家ではない。フリマに出店する人、パフォーマンスを発表をする人、情報紙を編集する人、それぞれがそれぞれの持てる力をまちづくりに発揮している。「決してまちづくりの専門家の集まりではない。子育てをしながら、仕事をしながら茅ヶ崎大好き人間だから参加している」。

会長は商店会連合会会長でもある岩沢氏であるが、ほっと茅ヶ崎準備室は独立した市民団体であり、商連・商店街のイベントのポスター・チラシ・報告書などの作成は仕事として受けている。組織運営も消費者を中心に自由に行っている。商連や商店街の総会、イベントの会議に出席し、協働で企画をしたり、茅ヶ崎市消費者団体連絡会、もっとまっちファンクラブ、道路問題を考えるまちづくり検討会などにも参加している。



茅ヶ崎市の将来都市構造図 (資料:茅ヶ崎市都市計画マスタープラン)

4. 具体策

(1) 「ほっと茅ヶ崎準備室」設立の経緯

1999年のジャスコ進出計画に対する反対運動から、商店会連合会と消費者団体連絡会の有志が中心となり「ほっと茅ヶ崎準備室」が設立された。「商店街づくり、まちづくりにとりくもう」を合言葉に、広く市民に開かれた組織となっている(個人サポーター年会費 1,000 円、団体サポーター年会費 12,000 円以上、会員数は約 80 名)。

(2) 「ほっと茅ヶ崎準備室」の活動内容

「ほっと茅ヶ崎準備室」は、「ほっと」をものさしにまちの資源を生かすまちづくりをすすめ、環境、商業、農業等が調和する「ほっとする」まちをめざしている。まちづくりの学習会「ほっとけない茅ヶ崎塾」の開講で茅ヶ崎市の問題を把握し、緑の減少、ごみの増加、まちのコミュニケーションが急速になくなっていることを明らかにした。消費者と事業者の利益は相反するものではなく、同じまちに住む市民としてまちに対する同じ思いがあることも分かった。

まちを面で構成する商店街はまちの顔であり、その商店街に空き店舗や昼間は閉まっている店舗が多くなると、まち全体が暗いイメージになる。昼間も開かれていて誰もが入りやすい店舗がある商店街は安全で楽しいまちになる。

「商店街がまちで果たす役割は大きい。元気なまちには元気な商店街がある」。

このような思いから、消費者と事業者とが協働で問題を解決するために、ほっと茅ヶ崎準備室は商店街を活かしたシステム作りに取り組んでいる。例えば市内各商店街に市民と一緒に取り組むイベントを提案している(事業者だけの販促の取り組みではなく消費者が欲しているイベントを商店街に提案)。そのような企画はほっと茅ヶ崎準備室のメンバーそれぞれの個性を生かして行っている。

ほっと茅ヶ崎準備室のこれまでの主な取り組みは以下のとおりである。

〔市内各商店街と連携して取り組んでいるもの〕

① 「ほっと市」

茅ヶ崎の中心にある商店街の協力で毎月第1日曜日に「ほっと市」(市民のフリーマーケットやパフォーマンス)を開催している。2006年で7年目になる。商店街の元気アップとまちのコミュニケーションをはかる場であるとともに、出店者の自己表現の場にもなっている。

最近ではリサイクルショップが増え、また、多くの大型店がフリーマーケットを開催するようになったが、ほっと市はテーマのあるフリーマーケット、個性ある出店者づくりを進めることで来街者を増やしている。例えば、市民から不要の着物を募集した着物のほっと市を行っている。親の世代の着物の処理に困っている人と着物を利用したい人をつなぎ、ごみを出さない取り組みとして人気がある。着物を気軽に着る、モノを大切に消費のライフスタイルを提案している。

② 「椿まつり」

商店街からは離れているが、まちの資源である「氷室椿庭園」で開催される「椿まつり」において、商店街がお茶の接待役、道の案内役をしている。茅ヶ崎在住の作家の講演会、お抹茶を味わう会、絵手紙づくり、カメラ教室など地元の人の能力(「人の資源」)を活用したイベントを行っている。

ほっと茅ヶ崎準備室では、商店街の依頼を受け、行き帰りに商店街に立ち寄ってもらえるよう、氷室椿庭園と商店街のマップを作成した。また、椿まつりでは商店街を楽しく歩いてもらうために「お休み処」や「のきさき駐輪場」も設置した。さらに、フリーマーケットを開催したり、「お店が一步前に出よう！」と呼びかけるなど、椿まつりは毎年進化し続けている。2006年は「着物を着て氷室椿庭園に行こう」という新しい試みを着物着付け教室と呉服店との協力の下で開催し、個店の刺激となった。



ほっと市（写真提供:ほっと茅ヶ崎準備室、以下の写真も同じ）



「椿まつり」のポスター



「椿まつり」期間中の商店街

③「みんなでアートしよう！」

商店街に子どもたちの絵の募集を提案し、商店街主催のコンテストを行った。保育園では絵の専門家による指導はできないので、それを商店街の力で行おうという意図もあった。商店会といっしょに地域の3つの保育園で専門家によるアート教室を開き、その後子どもたちの絵を募集して商店街に展示している。子どもたちの個性豊かな絵をまちなかに展示することで商店街が明るくなり、また、家族で子どもたちの絵を見に商店街を訪れている、という効果も生まれている。



「みんなでアートしよう！」

であい☆星フェスタ

人と人が出会い
心と心がつながる
星の日のついでに商店街に出かけた

第10回実行委員長
高橋 真由美さん

子どもたちが楽しみにしていたフェスタが、今年も無事開催されました。商店街の賑わいを感じながら、お祭り気分を味わいました。商店街の魅力を伝えるだけでなく、地域の活性化にも貢献しています。

第10回実行委員長
高橋 真由美さん

子どもたちが楽しみにしていたフェスタが、今年も無事開催されました。商店街の賑わいを感じながら、お祭り気分を味わいました。商店街の魅力を伝えるだけでなく、地域の活性化にも貢献しています。

第10回実行委員長
高橋 真由美さん

子どもたちが楽しみにしていたフェスタが、今年も無事開催されました。商店街の賑わいを感じながら、お祭り気分を味わいました。商店街の魅力を伝えるだけでなく、地域の活性化にも貢献しています。

若大商 2002夏 ECO

環境学習を受け入れている商店街が
イベントに中学生の参加を促した。
イベントをきっかけに商店街との
まちづくりを計画中。

第10回実行委員長
高橋 真由美さん

子どもたちが楽しみにしていたフェスタが、今年も無事開催されました。商店街の賑わいを感じながら、お祭り気分を味わいました。商店街の魅力を伝えるだけでなく、地域の活性化にも貢献しています。

子どもたちの絵 作品展

今年度の商店街の「絵の会」作品展
を開催し、今年度は「アートよう！」
を開催し、いろいろな
絵の作品を展示し、子どもたちの
絵の発表を促しました。

第10回実行委員長
高橋 真由美さん

子どもたちが楽しみにしていたフェスタが、今年も無事開催されました。商店街の賑わいを感じながら、お祭り気分を味わいました。商店街の魅力を伝えるだけでなく、地域の活性化にも貢献しています。

hot15 教育編

地域とのつながり

住んでいる人と
商店が
いっしょにつくる
子どもたちが
育つまち

子どもたちを見守る目がいっぱいあるまち

ほっと 茅ヶ崎準備室の提案

学校は週休2日制や総合学習への対応が求められています。地域との関わりを強化して対応しています。

商店街もマンネリ化したイベントなど
商店街活動に子どもたちのアイデア
や意見が必要と考える。準備室、準備室、
今年度は「アートよう！」と題して、
学校と商店街がまちや地域をいっしょ
に考え、考えることで、コミュニケー
ションが生まれます。

商店街に子どもたちの発表の場を！
家族で観られるまち！
社会体験ができるまち！

商店街で発表が楽しんだり、子
どもたちが社会体験ができたり、
人と人が出会い、心と心がつなが
ることができることが今年度の取り組み
の成果です。地域
の教育力を高めるために、子
どもたちの力を活かすまちの中
に広がる希望を、今年度の取り組み
で実現していきます。

子どもたちの絵作品展のお知らせ

④ たけのこ掘り

農家の協力でたけのこ掘りを行っている。まちと里をつなぐ取り組みである。里の人にとっては荒れた竹林の手入れになり、まちの人にとっては地元で自然を感じる場になる。年を追うごとに参加希望者が増えているが、農家の減少で応募の4分の1しか対応できていない状況である。

〔商連との連携〕

⑤ 環境関連事業

商連は「環境と経済は私たちの手で！」「エコ・シティ茅ヶ崎をめざします」をキャッチフレーズに様々な環境対策に取り組んでいる。ほっと茅ヶ崎準備室は各プロジェクトに委員として参加している。

ほっと茅ヶ崎準備室の考え方は「環境と経済の元気アップは同じこと」というものである。「全国のみならず世界の商品が消費を刺激する今のシステムより、地元の商店街の販売、流通システムの方が環境に優しく、経済的にも地元を潤す」という視点から、地産地消を基本としつつ茅ヶ崎の商店街の特長を生かし、また茅ヶ崎に合った以下の独自のシステムを商業者の人たちと共同で作った。

1) リターナブルびんの普及を推進（「茅ヶ崎リターナブルワイン」）

「茅ヶ崎リターナブルワイン（赤・白）」は、茅ヶ崎市商店会連合会、茅ヶ崎酒販組合、びん商、洗びん商、卸、メーカー等が集まりリターナブル瓶を普及させるために開発に取り組んだ商品（ワインは山梨県産）で、ラベルのデザインは公募により決定された。茅ヶ崎のごみを減らし、温暖化を防ぐリターナブル瓶を利用したワインの回収システムで、この空き瓶を酒販店に持っていくと 50 円をデポジットとして受け取ることができる。今は酒販組合リターナブル企画が事業を引き継ぎほっと茅ヶ崎準備室も引き続き参加している。

2005 年 6 月にワインの販売は1万本を突破し、空びんの回収率は 40%を超えた。他のリターナブル瓶も酒屋さんで引き取るルートをつくり、その実現の過程で行政との協力関係もできた。

2) マイ・バッグでお買い物を推進

「エコ・シティ茅ヶ崎マイ・バッグ推進会議」（消費者団体連絡会、商店会連合会、大型店連絡協議会、商工会議所、茅ヶ崎市）に委員として参加している。毎月 5・15・25 日をマイ・バッグデーに定め、全市でマイ・バッグを推進している。また、毎年全市の小学 4 年生にアンケート調査を実施している。

商連のマイバッグ推進委員会は、消費者に呼びかけて不要の傘を商店で回収し、その素材で障害者グループがマイバッグを作るシステムを立ち上げた（2005 年 9 月）。今後は商店街のイベントや小学校において「マイバッグの作り方教室」を開催する予定である。2006 年 5 月現在で約 500 枚のマイバッグが作られ、販売されている。

3) 環境にやさしい自転車のまち茅ヶ崎づくり

商連の「茅ヶ崎サイクルライフ研究委員会」（市民、サイクルK(慶応大学)、ほっと茅ヶ崎、自転車商組合、宮田工業、)に委員として参加している。そして、以下の活動を行っている。

- ① 自転車が走りやすい・利用しやすい商店街・まちづくり
- ② まちの便利な足として利用できるレンタサイクル
- ③ 安全に買い物できる商店街づくり「のきさき駐輪場」
- ④ 自転車に乗ることを楽しむ made in chigasaki 自転車の開発・普及

また、丈夫な自転車を大事にし、自転車屋さんの技術で点検・整備して長く安全に乗るライフスタイルを提案している。2006 年度は「相模線に自転車で乗ろう」というサイクリトレインの企画も進めている。

The image shows two posters. The left poster is for 'Returnable Wine' (リターナブルワイン) from Chigasaki. It features a bottle of wine and the text 'Returnable' and '環境を考える暮らしを提案します' (We propose a lifestyle that considers the environment). It also includes a diagram of a 'Returnable System' (リターナブルびん回収システム) and a list of participating organizations: 茅ヶ崎酒販組合 (Chigasaki Wine Retailers Association), 茅ヶ崎商工会議所 (Chigasaki Chamber of Commerce), 茅ヶ崎市商店会連合会 (Chigasaki City Retailers Association), and 茅ヶ崎市(後援) (Chigasaki City, Sponsor).

The right poster is for 'ECO-KASA My Bag' by Chigasaki Shouryuren. It promotes a program where customers collect unnecessary umbrellas from participating stores to create reusable bags. The text includes: '歩いて暮せる商店街 歩いて楽しい商店街 エコ・シティ茅ヶ崎をめざします。お客様と地元のお店がいっしょにごみを出さないエコ傘マイバッグでのお買物を進めています。' (Walkable living district, walkable fun district, Eco-City Chigasaki. We aim for Chigasaki. We encourage purchases with Eco Umbrella My Bags, which don't create waste, at participating stores.) It also mentions: 'このマークのお店で不要の傘を集めてエコ傘マイバッグをつくっています。' (We collect unnecessary umbrellas from stores with this mark to create Eco Umbrella My Bags.) and 'エコ傘マイバッグは どうやって作られるのでしょうか? マークのあるお店が 不要な傘を集めて、 市内福祉障害者作業所のボランティアの皆様が不要な傘から作りました。' (How are Eco Umbrella My Bags made? Stores with the mark collect unnecessary umbrellas, and volunteers from the Chigasaki Welfare Disability Workshop made them from unnecessary umbrellas.)

リターナブルワインのポスターと ECO・KASA My Bag のポスター



ECO・KASA My Bag

潮風とともに乗ればエコ・走れば元気

茅ヶ崎の
乗る人、
売る人、
作る人が、
いっしょに開発しました。

**made in
chigasaki**自転車
茅ヶ崎生まれの自転車から始まる
茅ヶ崎ライフスタイル

27インチ7段変速

made in chigasaki
0001

シリアルナンバー
オリジナル
シリアルナンバープレートが
付いています！

**made in
chigasaki**

¥39,800(税込) ¥41,790 自転車商組合加盟店でお願いください

茅ヶ崎市商店会連合会・茅ヶ崎サイクルライフ研究委員会 TEL. 0467-87-4147 英語ホームページ www.chigasaki-town.net

made in chigasaki 自転車のポスター

⑥ 「ほっとしたいね」の発行

まちづくり情報紙「ほっとしたいね」を発行し、まちづくり・商店街づくりを情報発信している。これは商店街の店舗に置いてもらっている。

「ほっと茅ヶ崎準備室」は、2005年度の「ボランティア活動奨励賞」(神奈川県「かながわボランティア活動推進基金 21」の賞)を受賞した。受賞理由は次のようになっている。

〔活動の概要〕

消費者と商店会の連携によるまちづくり活性活動

全国的に商店街の活性化が問題となっているなかで、消費者の観点から地域の商店街に問題提起を行い、商店会の元気アッププロジェクトへの参加やイベントなどを通して、消費者と商店街が一緒に取り組むまちづくりを進めている。

〔選考の視点〕

行政主導ではなく、市民が主体的に出したアイデアを形にしている。空き店舗を活用する事例は各地に見られるが、消費者が商店街の経営者達と一緒に協働して事業展開している点に注目したい。地域活性化に取り組む団体として、モデル的な活動として評価できる。



まちを守る消防員

30、40年前若者だった消防員は、今は市民で活躍しています。火災の発生や火災の被害を減らすために、日々プロフェッショナルとして活動しています。消防員は、火災の発生や火災の被害を減らすために、日々プロフェッショナルとして活動しています。



消防員の新倉さん

まちを守る人々の話

まちの安全は、まちのコミュニケーションが、ついています。消防員は、火災の発生や火災の被害を減らすために、日々プロフェッショナルとして活動しています。



火災に強いマサキ

商店街はまちを見守る“目”

道路に並ぶ商店街は、お店の中からまちを見守っています。まちに住む人と商店街が情報を交換し、まちを知ること、まちの安全につながります。

防犯

防犯は、まちの安全を守るために重要な役割を果たしています。防犯は、まちの安全を守るために重要な役割を果たしています。

我が家の防災

我が家の防災は、家族の安全を守るために重要な役割を果たしています。我が家の防災は、家族の安全を守るために重要な役割を果たしています。

防犯

防犯は、まちの安全を守るために重要な役割を果たしています。防犯は、まちの安全を守るために重要な役割を果たしています。

「ほっとしたいね」 たたんで持ちやすく 開いて読みやすい

5. 特徴的手法

消費者と商店街とが自治会等の関係組織を巻き込みながら一体となってまちづくりを進めている点が大きな特徴である。それは消費者と商店との間に気がつかないうちに存在する大きなコミュニケーション・ギャップを縮め、まちを活性化させる効果をもっている。

ほっと茅ヶ崎準備室ができた頃の茅ヶ崎市は大型店の占有率が神奈川県で 1 位であった。その茅ヶ崎市では、生活に身近なはずの商店が消費者から意図せずに遠のいている面があった。例えば、酒屋は配達を嫌うだろうと消費者側は考えていたが、酒屋の方では配達は当然と考えていた。そのため配達の宣伝をすることなどは考えもしなかった。そのような誤解があることが話し合いの中からわかり、その過程で茅ヶ崎リターナブルワインも生まれた。このような活動は消費者だけでも、商業者だけでもできなかったことであり、ほっと茅ヶ崎準備室の取り組みはまちづくりにおけるコミュニケーションの大切さを示す好例となった。

茅ヶ崎の環境と経済とをアップするシステムを産業、特に商業の分野から提案し、具体化していることも大きな特徴である。茅ヶ崎のごみの減量や温暖化防止行動をシステム化し、大量販売、大量消費のシステムを商店街を生かした環境に優しいシステムへと移行させることを図っている。

6. 課題

茅ヶ崎市では商品の流通の多くが大型店中心になっており、個店では商品を仕入れること自体が難しくなっている。しかしながら、「歩いて暮らせるまち」があることは人々にとって必要なことであり、特に高齢者にとっては生活を成り立たせるための必須の条件となる。そのためにも商店街の活性化に今後一層強力に取り組んでいくことが求められている。

また、ほっと茅ヶ崎準備室のこれまでの活動はソフト中心であったが、今後はまちの骨格のあり方等、ハード(道路等)も含めて総合的にまちづくりを考えていくことも必要になっている。

(参考・引用文献)

茅ヶ崎市ホームページ

ほっと茅ヶ崎準備室＋野口和雄「市民が商店街を変える」(『季刊まちづくり』2004 年 4 月号、学芸出版社)